



## 国防の根幹を支える情報システムのレベルアップに直結するセキュリティ強化にCISSP認定資格を役立てています

### 防衛省 航空総隊

#### 資格取得推進のポイント

- **経営課題・ビジネス背景**  
国防に「情報システム」が不可欠になったのに伴い、高度なセキュリティ技術が求められている。
- **導入目的**  
プログラム管理隊の情報セキュリティ担当者としてセキュリティについての体系的な知識が必要であった。
- **導入プロセス**  
効率的かつ効果的に知識を習得するためにCISSP 10ドメイン レビューセミナーを受講した。
- **取得効果**  
世界的な標準機構に能力を認められたことで積み上げてきた知識と技術に対し強い自信を得られた。

18個の部隊と約4,300名の隊員を擁する入間基地は、航空自衛隊最大級の基地です。中でもプログラム管理隊は、航空自衛隊唯一の兵器システムに関するソフトウェア専任部隊で、バジッ・システム(自動警戒管制組織)などの運用プログラムの管理業務を行う部隊です。今回は情報セキュリティに特化したチームの両輪としてメンバーを牽引する佐藤 多江子氏、齊藤 貴史 氏のお二人にご登場いただき、CISSP認定資格を、どのように活用されているかなどを語っていただきました。

### 日々進化し強大化する外部からの脅威に対処するため国際標準CISSP認定資格を取得

(佐藤氏) 私が自衛隊を志願したのは、海外留学のための資金を貯めることが目的でした。そのため数年で任務を終える任期制隊員として入隊したのですが、次第に職務に誇りを持ち、専門技術を身につけ、幹部自衛官となった今では、天職だと思っています。現在所属するプログラム管理隊は、航空自衛隊で使用する兵器システムの設計から運用開始後のソフトウェアの管理まで、いわゆるシステムのライフサイクルのほとんどの部分に係わる、いわば「国防」の中核になる重要な業務を担っています。その中でも「情報セキュリティ」という分野は、特別な知識や技術が必要な業務であることから、本来の業務と平行して、「情報セキュリティ」に特化した業務を実施しながら、この分野に関する知識や技能を身につけてきました。

(齊藤氏) 私が最初に配属されたのが、自衛隊員の給与計算を

行うプログラムを作る部隊でした。ITの基礎知識がまったくなかった私には、まるで雲をつかむような話でしたが、先輩隊員の仕事から学び取ったり、独学で学習したりしてスキルアップに努めてきました。その一方で、システムを守るために必要な能力を身につけた隊員を育成するための取り組みが実施され、私たちもその教育を受けてきました。その中で、「情報セキュリティ」という分野は、閉じられた世界の中だけで完結するものではなく、日々変化を繰り返す外部の脅威に対抗する力がなくては通用しない分野であるという事に気がつき、その思いが日に日に強くなりました。そんな折、CISSP 認定資格の存在を知ることとなりました。この資格は自分の業務にも有用であると考え、取得について佐藤2等空尉と共に関係上司に相談、理解を得ることができました。

### 情報システムを俯瞰的な視野で捉えることが可能になりました

私たちが任務を遂行する上で「情報システム」は必要不可欠な存在となっています。この情報システムにおいて発生す

るさまざまな脅威は、「国防」という大変重要な任務に影響を与えます。そのため、従来よりも、情報システムを使用した戦



航空総隊  
プログラム管理隊  
第1プログラム隊  
2等空尉, CISSP  
佐藤 多江子 氏



航空総隊  
プログラム管理隊  
第1プログラム隊  
2等空尉, CISSP  
齊藤 貴史 氏



07

「情報セキュリティ」という重要なミッションを担うことに誇りを持っています  
その「想い」を「確信」に変える原動力になるのが、CISSPです

い方、また、数年前からは情報システム自体を守るための研究がさまざまな角度から実施され、その研究結果を反映する形で現在のシステムが運用されています。特に最近のシステムは、従来の作り込みからCOTS(民生品共用)へとスキームをシフトしていますので、常に最新の知識やセキュリティ技術をフォローアップすることが求められます。取得後もCPEクレジット(継続教育単位)を継続的に取得することが厳密に求められるCISSP認定資格を取得することは、こうした課題を解決することにつながります。また、これまでの業務の中で培ってきた自分の能力が、どれだけ外の世界で通用するものなのかを知る絶好の機会です。まず、私と同じように、情報セ

キュリティ業務に携わってきた同僚の齊藤2等空尉とともに、(ISC)²公式CISSP 10ドメインレビューセミナーに参加したのですが、このセミナーに参加してとてもよかったと感じたことは、これまでに蓄積してきた知識等が情報セキュリティのうちのどの分野に該当するものなのか頭の中で整理することができたということです。また、民間企業と違い、利益や損失というものをなかなか定量化することのできない私たちの世界においても、リスクマネジメントや事業継続計画のように俯瞰的な視点からシステムを管理するということの重要性を、改めて認識することができました。認定試験の結果、齊藤と私の2名がCISSP認定保持者になることができました。

### 情報セキュリティの開発・教育・訓練の大きな糧となっています



CISSP認定保持者となって一番の効果は、世界的な標準機構に、私たちの能力を認めてもらうことができたという自信を得られたことです。我が国の安全保障を確保するための重要なパートナーである米国が、「ゴールドスタンダード」として認定していることも、取得価値を引き上げるのではないのでしょうか。また、これまで情報セキュリティを学ぶために辿ってきた過程は、セキュリティプロフェッショナルとなるために必須であったということが確信できたことです。ここで得られた自信は、私たちが担当する情報セキュリティ関連の開発・教育・訓練等の大きな糧となっています。特に私たちが現在、取り組んでいる指揮命令ラインの情報集約・伝達システ

ムの開発には、リスクマネジメントから通信・ネットワーク、アーキテクチャー・設計、暗号学、法規制・コンプライアンスまで包括的な知識と技術が求められるので、CISSP 10ドメインで学んだことが大変役立っています。また、自衛隊以外で情報セキュリティ分野に携わり、第一線で活躍されている方たちと意見を交換する機会を得られたことも、CISSP認定資格の取得を通じて得られた大きな利点であったと思います。ふだん自衛隊以外の人と触れあう機会の少ない私たちにとって、ベンダー企業の情報セキュリティ担当者から話を聞くことで、また違った角度からセキュリティを見ることができ、知見を広げることができました。

### 私たちの後続くセキュリティプロフェッショナルの育成を図ります



我が組織の任務が情報システムに依存していく傾向はますます高まる一方です。情報システムを健全に運用するためにも、CISSP認定資格のように、システムを情報セキュリティの観点からマネジメントすることができる人材が多数必要になります。そのような人材を育成していく過程の中でCISSP認定

資格のような「セキュリティプロフェッショナルの基準」はとても有効であり、効果的な教育の実施に大きく役立たせることができると考えています。最後に、今回CISSP認定保持者となった我々が様々な場面で組織に貢献することができるよう、今後ますます努力し、業務に活かしていこうと思います。